

『Mind Charging』

第 159 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 11 月 21 日

西郷隆盛の名言



正論では革命をおこせない。

革命をおこすものは僻論である。

僻論(へきろん)とは、偏っていて道理(正論)に合わないことを指します。私はこの言葉を人生に照らし合わせて考えてみました。自分の人生における革命とは何かを考えると、『人生の岐路』に立たされる時にどのような選択をするかということだと思いました。選択した道によって、その後の人生は大きく変わります。私自身のこれまでの人生を振り返ると、少しだけそういった『転機』を多く経験していると思います。そして、選択をする上で最終的な決め手となった考えについては『僻論』という部分もあったと感じています。

人生の選択というテーマがあれば、現在の置かれた場所で花を咲かせるためにどう取り組んでいくのかというテーマもあると思います。みなさんのような『学生』であれば、普段より 10 分多く勉強することや部活動で活躍するために練習だけでなく食事について研究するなど立派な革命だと思います。与えられた物事だけを“こなす”だけであれば、人間は、食事も睡眠も不要でスタミナも無限にある機械や、膨大な情報を覚え、決して忘れることがないAIに勝つことはできないと思います。未熟な部分はあるものの、革命を起こすことや新たなアイデアを生み出すことは人間の『特権』であると考えます。そういう意味では自分の人生をより良いものにするための努力とは、本来『人間としてのプライド』を懸けて取り組むべきものであり、『人間らしい』行為なのかもしれませんね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

西郷 隆盛(さいごう たかもり、旧字体:西郷隆盛、文政 10 年 12 月 7 日(1828 年 1 月 23 日) - 明治 10 年(1877 年) 9 月 24 日)は、日本の武士(薩摩藩士)・軍人・政治家。薩摩国薩摩藩の下級藩士・西郷吉兵衛隆盛の長男。諱は元服時に隆永(たかなが)のちに武雄・隆盛(たかもり)と名を改めた。幼名は小吉、通称は吉之介、善兵衛、吉兵衛、吉之助と順次変更。号は南洲(なんしゅう)。隆盛は父と同名であるが、これは王政復古の章典で位階を授けられる際に親友の吉井友実が誤って父・吉兵衛の名で届け出てしまい、それ以後は父の名を名乗ったためである。一時、西郷三助・菊池源吾・大島三右衛門・大島吉之助などの変名も名乗った。(Wikipedia 参照)